

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令で 定める 基準単 位数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	人文学科	夜・ 通信	66	0	56	122	13	
教育学部	学校教育教員養成課程 養護教諭養成課程	夜・ 通信	66	0	133	199	13	
法学部	法学科	夜・ 通信	66	0	21	87	13	
法学部	法学科	①夜・ 通信	66	0	4	70	13	
経済学部	経済学科	夜・ 通信	66	0	25	91	13	
経済学部	経済学科	①夜・ 通信	66	0	8	74	13	
理学部	数学科 物理学科 化学科 生物学科 地球科学科	夜・ 通信	66	4	0	70	13	
医学部	医学科	夜・ 通信	66	0	142.3	208.3	19	
	保健学科	夜・ 通信	66	0	343	409	13	
歯学部	歯学科	夜・ 通信	66	0	95.3	161.3	19	
薬学部	薬学科	夜・ 通信	66	0	32	98	19	
	創薬科学科	夜・ 通信	66	0	10.75	76.75	13	

工学部	工学科機械システム系	夜・通信	66	20	8	94	13	
	工学科環境・社会基盤系	夜・通信	66	20	6	92	13	
	工学科情報・電気・数理・データサイエンス系	夜・通信	66	20	10	96	13	
	工学科化学・生命系	夜・通信	66	20	1	87	13	
	機械システム系学科	夜・通信	66	20	7	93	13	
	電気通信系学科	夜・通信	66	20	14	100	13	
	情報系学科	夜・通信	66	20	19	105	13	
	化学生命系学科	夜・通信	66	20	11	97	13	
環境理工学部	環境数理学科	夜・通信	66	0	2	68	13	
	環境デザイン工学科	夜・通信	66	0	40.5	106.5	13	
	環境管理工学科	夜・通信	66	0	8.5	74.5	13	
	環境物質工学科	夜・通信	66	0	2	68	13	
農学部	総合農業科学科	夜・通信	66	0	11	77	13	
グローバル・ディスカバリー・プログラム		夜・通信	66	0	24	90	13	
(備考) 2021年度より工学部と環境理工学部が統合し、「工学科 機械システム系/環境・社会基盤系/情報・電気・数理・データサイエンス系/化学・生命系」を設置。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile04.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	財務・施設担当
非常勤	岡山県企業と大学との 共同研究センター長	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	地域共創担当
非常勤	株式会社フジワラテク ノアート 代表取締役 社長	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	ウェルビーイング 経営担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスについては、「岡山大学シラバス作成ガイドライン」において、シラバスのフォーマットは全学で統一としたうえで、授業内容、到達目標、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。また、フォーマットの詳細は定期的に見直すこととしている。</p> <p>各授業担当教員は、岡山大学シラバス作成ガイドラインに基づき作成された、全学統一シラバスフォーマットに、「シラバス作成上の留意事項」「シラバス入力の手引き」等に従い、シラバスを作成する。</p> <p>全授業科目において学生の履修登録開始前の3月末までに日本語版、英語版シラバスを作成し、HPにて公開しており、学外からも閲覧可能としている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記することにより、予め学生に周知し、学生からの質問や疑問には適切に応じている。</p> <p>成績評価は、授業の形態(講義、実験、実習、演習、実技等)に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。</p> <p>また、成績評価の客観性を担保すると共に国際的に通用するルーブリックの事例集を全学に提示し、ルーブリックに基づく成績評価を推進している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA制度を導入し、HP及び各学部学生便覧等にて学生に周知している。GPAは、以下の計算式で算出したGP(グレートポイント)を用いて算出する。</p> $GP = (\text{評点} - 55) / 10$ <p>※ 不合格(評点60点未満)のGPは「0」とする。</p> <p>GPAの計算式は、以下のとおり</p> <p>分子…履修登録した授業科目の単位数×その授業科目のGPの総和</p> <p>分母…履修登録した授業科目の単位数の合計</p> <p>※「認定」又は「修了」の評語により、単位を修得した科目や履修登録の取消手続きをした科目は、GPA算出の対象とはならない。</p> <p>各自のGPAは学生本人及び指導教員等は随時確認が可能となっており、個々の学生への指導の際や、各種選考の基準、教学IRの分析データなどに活用されている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/gpa.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、ディグリー・ポリシーを全学、各学部・学科単位で定め、HP、大学案内、学生便覧等にて公開している。本学におけるディグリー・ポリシーとは、卒業に際し、当該課程における要件として学生が身につけているべき能力を明示したものであり、平成30年度より、学生が履修する授業科目によって「何ができるようになるか」を明確化し、どの様な学習成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するののかという方針をできる限り具体的に示すことを目的として、観察可能な能力を「コンピテンシー」として明示しディグリー・ポリシーと関連付けしている。</p> <p>定められた卒業要件を満たすことがディグリー・ポリシーで示す学生が身につけているべき能力を満たすこととなり、学生の修得単位数等を踏まえ、学部長の申し出により学長が卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/education-policies.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR3.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR3.pdf
財産目録	—
事業報告書	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/jigyoR3.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/kanji_iken_r3.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 国立大学法人岡山大学 中期計画 対象年度: 令和4年度~9年度)
公表方法: https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/johokoukai_j/file/chuki_keikaku220330.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/tenken/pdf/r3jiko.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/hyoukahoukoku2021.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、人文科学諸領域の文化を総合し、新たな価値を創造するため、専門の学術を教育研究し、知的、感性的能力を涵養して社会的要請に応ずる人材を育成し、世界文化の進展に寄与することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf ）
（概要） 岡山大学文学部は、所定の期間在学し、卒業に必要な所定の単位を修得するプロセスを通じて、以下に掲げる学士力を総合的に達成した学生に、学士の学位を授与する。 人間性に富む豊かな教養【教養】 ダイバーシティとグローバルが重視され、多様かつ普遍的な知の獲得が不可欠とされる現代社会にあって、地域・社会・文化と言語との関連性や文化の諸相に関心を持つことは、人間が創り上げた社会の在り方を理解する上での必須のプロセスである。このことを通じて学生は、自らがその一員である現代社会についての認識を深め、社会をより良い方向に導いていくための根源的、内発的な動機を獲得することができる。また、人間が長い歴史を通じて築き上げてきた豊かな思考の伝統と教養を継承しつつ、人間と世界についてみずから問い、探求する上での基礎的能力を身につけることによって、新たな時代における人間社会と文化の方向性を模索し、それを実現し得るだけの思考力と構想力を涵養する。 社会に貢献できる専門性【専門性】 専門的な学識とそれに基づく技能、とりわけ古典・外国語文献の読解、史資料・作品の分析、あるいは実験・調査を行う能力を習得し、それらを活用することができる。 効果的に活用できる情報収集・発信力【情報力】 人類史の過去と未来を見渡す幅広い視野に立ち、必要な情報を収集し、適切な方法で客観的に分析・考察し、その過程と結果を正確に伝達しうる言語表現力を駆使して、それらを評価・発信できる。 時代と社会をリードする行動力【行動力】 グローバル化の進展、価値観の多様化の中で「人間とは何か」という人文学の根源である問いをいだきつつ、社会・文化・心・言葉・行動に対する論理的思考力を獲得し、併せて多様性、包摂性といった共生・共創のための国際感覚を身につける。さらに、言語表現力、外国語運用能力に裏付けられたコミュニケーション力を用いて積極的かつ創造的に行動することで、社会活動において高度なリーダーシップを発揮する。 生涯にわたる自己実現力【自己実現力】 人文学的見地に基づいて問題を発見し解決する手続きを、1年次から継続的に学習することで、旺盛な知的好奇心、豊かな感性、先入観に惑わされない公正な思考、自分を客観的に把握する能力を獲得できる。特に、演習科目への参加により調査・情報収集・解析の技法を修得し、卒業論文の作成過程を通じてそれを実践することで、卒業後も生涯にわたって知的関心を持続し、社会に刺激を与えるとともに自立した個人として自己の成長を追求できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf）

（概要）

岡山大学文学部は、ディグリー・ポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養，社会に貢献できる専門性，効果的に活用できる情報収集・発信力，時代と社会をリードする行動力，生涯にわたる自己実現力）を備え，グローバル化社会に対応できる人材を育成するため，教養教育科目および専門教育科目を提供しています。

成績は，授業への取り組み，報告，発表状況・レポート，試験など多様な要素を組み合わせることで厳格な評価をします。また，試験，レポート等は，成績評価の際に，受講および受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が適切に反映されるよう，課題設定を工夫します。また，文学部FD委員会を中心として，継続的な教育方法の改善に取り組んでいます。

文学部人文学科では，人間に深く関わる思想・芸術・社会・心理・歴史・言語・文学を総合的に探究するため，「哲学・芸術学」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学」「歴史学・考古学」「言語文化学」の5つの教育分野を設置しています。

授業科目は専門に偏ることのないよう，幅広い学問領域の科目群の履修を求める教養教育科目（30単位必修）と，学部・分野に特有の授業や分野を超えて展開される授業で構成される専門教育科目（94単位必修，卒業論文14単位を含む）に大別されます。こうした科目群を組織的に履修するために，いくつかのプログラムが用意されています。（後述）

1年次には，教養教育科目として，「知的理解」「言語」「実践知・感性」「汎用的技能と健康」「導入教育」を履修するとともに，「人文学の論点」「人文学入門演習」で大学での学習・研究の基礎となる知識や方法について学びます。また，2年次以降（一部は1年次）に履修する専門教育科目として，各分野の学問の基本体系を学ぶ「人文学概説」，各分野の学術研究の最新の成果を解説する「人文学講義」，各分野の研究の技法を実践的に学ぶ「実践演習」，卒業論文の作成のための実地指導である「課題演習」を開設しています。演習科目においては少人数教育を重視し，ディスカッション等を通じて，生きた知識が身につくことを目指します。主専攻プログラムは，所属分野においてこれらの専門教育科目を重点的に履修するものです。さらに，主専攻以外に幅広く積極的に人文学を学ぶ総合人文学プログラムでは，従来の学問の枠組みにとらわれず，現代社会の課題や文化多様性を学ぶ授業科目を開設しています。

また，資格取得のための心理職養成プログラムや学芸員養成プログラム，留学を目指す外国語習得・留学プログラム，さらには，専門性の高い研究指導を行う研究力養成プログラムを開設しています。

学生は，入学後，アカデミック・アドバイザーの支援を受けながら，どのような知識や能力を身につけて卒業するかという4年間の学修計画を主体的に立案します。自らの問題意識に従って，主専攻プログラムにおいて特定の分野の学問を深く究めることも，総合人文学プログラムにおいて，複数の分野にまたがって履修したり，学際的な研究テーマに取り組んだりすることも可能です。

「人間性に富む豊かな教養」を涵養するために

ダイバーシティが重視される現代社会にあって，地域・社会・文化と言語の関連性，異文化のあり方に関心を持ち，人間が長い歴史を通じて築き上げてきた豊かな思考の伝統と教養を継承しつつ，人間と世界についてみずから問い，探求する上での基礎的能力を身につけるため，次のような科目を提供します。

◇ 文献の読解，論理的文章の作成，口頭発表の方法といった大学での勉学に必要な基礎的知識・技術・方法を養うことや，幅広い読書経験を通じて豊かな人間性を育むことを目指す「人文学の基礎」を，1年次の第1・第2学期に開講します。

◇ 人文学各分野の内容に幅広く触れ，また研究の初歩を体験し，4年間の学修計画の立案の参考とするために，講義形式の「人文学の論点」を1年次第1～第4学期に開講し，少人数の演習形式の「人文学入門演習」を1年次の第3・第4学期に開講します。

◇ 専門教育においては，各分野に固有の科目の他，より幅広い知識・技能が身につくようにするため，自由科目を他分野の科目も幅広く修得できるようにします。また，複数分野

にまたがるテーマを扱う総合人文学プログラム科目群を開設します。

「社会に貢献できる専門性」を修得するために

古典・外国語文献の読解、資料・作品の分析、あるいは実験・調査を行う能力を身につけ、専門的学識を実践的に用いて社会に貢献する態度を育成するため、次のような科目を提供します。

- ◇ 2年次以降、「人文学概説」「人文学講義」などの講義科目を段階的に履修することによって、専門性を深めていきます。
- ◇ 実験・調査などの研究方法を実践的に学んだり、専門知識を活用しながら批判的な姿勢で実証的・論理的思考を実践することを目指して、「実践演習」を開講します。
- ◇ 3年次からの「課題演習」では、卒業論文の構想・作成のための指導をゼミ形式で行います。
- ◇ 4年間の学修の集大成として、学術研究の実験を通して、資料の収集法や分析法、論理的思考力、発信力、文章力を身につけるために、すべての学生は卒業論文を作成します。
- ◇ 教員養成のためのカリキュラム、心理職養成プログラム及び学芸員養成プログラムは、それぞれ資格取得を目的としているとともに、地域に貢献できる人材を幅広く育成することを目標としています。

「効果的に活用できる情報収集・発信力」を獲得するために

人類史の過去と未来を見渡す幅広い視野に立ち、必要な情報を収集し、適切な方法で客観的に分析・考察し、その過程と結果を正確に伝達しうる言語表現力を駆使してそれら进行评估・発信する能力や態度を育成するため、次のような科目を提供します。

- ◇ 演習科目において、古典や外国語文献の専門的な読解法を実地に指導します。
- ◇ 「人文学入門演習」「実践演習」をはじめとする授業科目では、人文学に特有の調査法だけでなく、分野によっては、自然科学的な研究の技法や、インターネットやデータベースなどを活用した研究の方法を指導します。
- ◇ 「実践演習」とともに「課題演習」では小人数授業の形式をとり、学生のプレゼンテーションと教員を交えた全参加者による活発なディスカッションなどを通じ、情報の収集・分析・評価・発信の実践的方法を指導します。
- ◇ 心理職養成プログラムの授業科目を通じて、公認心理師国家試験受験資格を得られるよう指導します。
- ◇ 学芸員養成プログラムの授業科目においては、学芸員資格を取得するための実践的な知識・技能を教授するとともに、博物館・美術館等の現場で活用できる情報収集・発信力を涵養します。
- ◇ 外国語習得・留学プログラムの授業科目においては、外国語の高度な運用能力と表現力が身につくよう指導します。
- ◇ 研究力養成プログラムにおいては、大学院への進学を目指して、より高い専門性を身につけられるよう指導します。
- ◇ 従来の学問の枠組みに収まらない新領域・学際領域の授業科目を総合人文学プログラム科目として開講し、時代や社会の変化に対応しつつ、幅広い情報収集・発信力の養成を目指します。

「時代と社会をリードする行動力」を身につけるために

グローバル化の進展、価値観の多様化の中で「人間とは何か」という人文学の根源である問いをいだきつつ、社会・文化・心・言葉・行動に対する論理的思考力を獲得し、言語表現力、外国語運用能力に裏付けられたコミュニケーション力を用いて行動するため、次のような科目を提供します。

- ◇ 担当教員や他の履修生とのディスカッションを重ねながら、テーマを学問的に深め、追求する方法を学ぶため、1年次から「人文学入門演習」をはじめとする多様な演習科目を開講します。
- ◇ 卒業論文の作成が、報告とそれに基づく教員と他の学生とのディスカッションのなかで展開できるよう、「課題演習」科目を開講します。これらの演習科目における様々なディスカッションを通じて、時代と社会をリードする高度なリーダーシップを育みます。
- ◇ 外国語習得・留学プログラムを開講し、ネイティブ・スピーカーの教員が担当する授業

を多数用意します。

◇ 海外の大学との交流協定に基づく留学、岡山大学短期留学プログラム(EPOK)、短期語学研修への参加を奨励しています。外国語習得・留学プログラムの積極的な履修と相俟って、多様でグローバルな視座の獲得と国際感覚の涵養に努めます。

「生涯にわたる自己実現力」を育成するために

旺盛な知的好奇心、豊かな感性、先入観に惑わされない公正な思考、自分を客観的に把握する能力と、自立した個人として生涯にわたって自己の成長を追求する姿勢を育成し、卒業後も持続する知的関心が根付くよう、1年次からのカリキュラムを構成しており、卒業論文の作成の指導には特に力を入れています。また、演習科目で教授する調査、情報収集、解析の技法には、社会に出てからも役立つものが多く含まれています。外国語の習得や海外留学体験は、卒業後の活動に大きな可能性をひらくものであり、その実現に向けての指導もおこなっています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf）

（概要）

教育内容・特色

人文学科1学科制のもとで、「哲学・芸術学」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学」「歴史学・考古学」「言語文化学」の5つの教育分野を設け、幅広い学習を保証しています。1年次生は「人文学の基礎」を含む教養教育科目に加え、「人文学入門演習」「人文学の論点」などの専門教育科目を履修することを通して、人文学のエッセンスを学ぶとともに、専門分野の決定に結びつけていきます。2年次以降の学生は、主専攻プログラムを通じて「人文学概説」で各分野の学問の体系的な知識を身につけ、「人文学講義」で研究の最先端の成果を学びます。また「実践演習」「課題演習」では、研究方法に関する指導を受けながら、学びの集大成としての卒業論文に取り組みます。分野の枠を超えたテーマを扱う総合人文学プログラムの修得を推奨するとともに、資格取得のための心理職養成プログラムや学芸員養成プログラム、留学を目指す外国語習得・留学プログラム、さらには、専門性の高い研究指導を行う研究力養成プログラムを通じて豊かな経験と感性を育み、人間の築き上げた文化に対する理解を深めます。そして、複雑で多様な現代社会を生き抜くために必要な思考力と表現力を身につけ、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成しています。

求める人材

文学部人文学科では、高校で履修した基礎的な知識を備え、課題を発見し解決していく意欲と能力をもち、論理的な思考とそれを的確に表現する力量を備えている人を求めます。入学後は次のような人材に成長できる人を求めています。

1. 哲学・倫理・芸術に関心をもち、幅広く本や芸術作品に親しんでいる人
2. 心や行動、社会や文化、それらと自然環境との関係や地域性に関心をもち、自ら情報を収集して、データに基づいた議論に取り組める人
3. 日本と世界の歴史や異文化に関心があり、斬新な発想と論理的な思考で、過去と現代のつながりを学ぼうとする意欲のある人
4. 言葉そのものの仕組みや歴史、言葉の多様性と普遍性、地域・社会・文化と言葉の関係などに関心や問題意識があり、それらについて科学的に研究する方法を学びたいと思っている人
5. 言葉と文化に対する感性を養いつつ、人間および世界について問うことで、現代社会と積極的に関わろうとする意欲をもつ人
6. 地域・世界のあり方を把握し、持続可能な社会を実現することに強い意欲を持つ人

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、管理学則に示す大学の目的を達成するとともに、教育の理論及び実際を教授研究し、学校教育の分野等で活躍する有為な人材を養成することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>岡山大学教育学部は、所定の期間在学し、学部の定める授業科目を履修して所定の単位を取得し、以下のディグリー・ポリシーに掲げる学士力を習得したものに、「学士（教育学）」の学位を授与する。</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】</p> <p>自然や社会の多様な問題に対して関心を持つこと。主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有すること。さらに、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけていること。</p> <p>目的につながる専門性【専門性】</p> <p>教育に関する諸科学の知識と技能を幅広く習得すること。さらに、創造的に教育実践できること。</p> <p>効果的に活用できる情報力【情報力】</p> <p>必要な情報を収集・分析し、正しく活用できる能力を有し、効果的な情報発信ができること。また、先端技術を活用した教育実践ができること。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】</p> <p>教師として求められるコミュニケーション能力と共に、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有すること。また、特色ある教育活動を展開するために常に探究心をもって行動できること。</p> <p>生涯にわたる自己実現力【自己実現力】</p> <p>自立した個人として主体的に学び続け、日々を享受する姿勢を一層高めること。さらに、生涯に亘って高度職業人として自己の成長を追求できること。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>岡山大学ディグリー・ポリシーに掲げる学士力を備えた人材育成のために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づきカリキュラムを策定しています。</p> <p>なお、成果については、教職実践演習と教職実践インターンシップを核として、シラバス等に明記された到達目標に応じて、試験、レポート、審査、口頭試問、研究発表などを通して評価します。</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】</p> <p>教養教育課程では知的理解、言語、実践知・感性、汎用的技能と健康に係る科目を設定し、人文・自然・社会にかかわる多様な課題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を養うことを目的としています。さらに、高年次教養科目では専門性と繋がりを持った教養の涵養に努めています。</p> <p>専門教育課程においては、教育者としての自覚を促すこと、人間関係を構築する力の育成、教育システムの理解等を目指す科目を設定しています。</p> <p>目的につながる専門性【専門性】</p> <p>教育に関する諸科学の知識と技能を幅広く身につけ、理論と実践を往還しつつ、反省的・創造的な教育実践を開発する力を習得します。</p> <p>専門科目は、教育実践力を身につけるために必要な学部科目・コース科目・専修科目で構成されています。学部科目は、教職教養の科目群すなわち、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目から</p>

成り立っています。課程・コース科目・専修科目では、教育実践に関する諸科学の知識と技能を習得するための科目を、1年次から3年次まで系統的に学びます。

上記の全科目を貫く核が「教員養成コア・カリキュラム」です。これは、附属学校園での1年次から3年次までの教育実習系科目と、4年次「教職実践演習」及び「教職実践インターンシップ」からなります。

効果的に活用できる情報力【情報力】

教育実践における情報収集力、情報共有・説明力、最先端技術の活用力としての情報力を育成します。とりわけ、グループで課題に取り組み情報を共有したり成果を発信する力や、情報モラルに基づいたICT機器を用いた教育実践の技能を習得します。

そのために、教養教育課程の情報処理入門、学部科目では教育方法関連科目、コース科目では各教科の指導法科目、さらに専修科目を経て卒業研究に至る科目群を用意しています。また、「教員養成コア・カリキュラム」では実地に即した観察参加実習に取り組むことを通して、子供と学校を理解するのに必要な情報を収集・分析する能力を育成します。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバルマインドとリサーチマインドを持ち、品位と思いやりを備えた教育者として活躍できる行動力を育成します。そのために教養教育課程では、言語と異文化理解に関する科目を設定しています。

専門教育課程では、教職論や教育実習系の科目を通して教育者としての態度を培います。また、専門科目では、学生の主体的な学びを通して、各自が専攻する校種や教科等に対応した提案的な教育活動を構想・実践する力を養います。この他、グローバル特別実習など豊かな国際感覚や言語力を養う科目を設定しています。地域教育プログラムでは、岡山県北地域におけるフィールドワークを展開しています。

生涯にわたる自己実現力【自己実現力】

教職を担う高度職業人への成長を追求する自己実現力を育成します。4年間の学びを通して、教師に求められる強い使命感や高い倫理、豊かなコミュニケーション能力やチームワーク、子供理解、学習指導力という視点から自己を省察し学び続ける基盤を育みます。

そのために、4年間の教育課程の折々に自己課題の発見と解決を促す「教職実践ポートフォリオ」を準備し、客観的に自己評価する視点と方法を習得します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf）

（概要）

教育内容・特色

教育学部の使命は、高度な教育実践力を身につけた教師を育成するとともに、教育研究の発展に寄与することです。

教育学部は、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の教諭、養護教諭を目指す学生を育てています。教師には幅広い教養と専門性が求められます。そのために、人文科学、社会科学、自然科学、医学などを教育の視点から学ぶとともに、教育実習等を通して教育実践力を身につけることができます。

求める人材

1. 基礎的な学力を持ち、学校教育への関心と理解そして熱意がある人
2. 学ぶことの楽しさを伝えることに意欲のある人
3. 子供の発育発達と心身の健康について学び、豊かな感性を育みたい人
4. 子供たちと一緒に活動することが好きな人
5. 多様な人々と連携・協働しながら地域社会に貢献していく意欲がある人

入学後の学修のため、高等学校段階までに習得してもらいたいこと。

高校では授業に意欲的に取り組んでください。学習内容を習得するだけでなく、その楽しさを発見してください。良い教師とは、学ぶことの楽しさを伝えることができます。子供の学びと発達、心身の健康、教育をめぐる社会の問題に興味をもって自分なりに考えたり、部活動やボランティアなどに積極的に参加したりするなど、幅広い経験を積んでください。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、法学を教授研究することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-low.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>岡山大学法学部は、学部の教育目標に基づき、所定の期間在学し、かつ、学部の定める授業科目の履修を通じて所定の単位を取得し、以下のディグリー・ポリシーに掲げる能力および資質等を修得していると確認された者に対して、学士の学位を授与する。</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】</p> <p>グローバル化が進む現代社会に対する深い理解とともに、国家、行政、企業、学校、家庭その他様々な社会集団、社会活動に起因する諸問題に対して、柔軟かつ適正な判断を行うための論理力、分析力、創造力を身につけ、多角的な視野から柔軟かつ適正な判断ができる。</p> <p>リーガル・マインドの涵養【専門性】</p> <p>法や政治等に関する実践的課題に対応できる法的思考能力（リーガル・マインド）を身につけ、持続可能な社会の実現への貢献を目指して、具体的な問題に解決策を提示することができる。</p> <p>情報を科学的に分析する能力【情報力】</p> <p>グローバル化が進む現代社会の諸問題について、歴史のおよび国際的な視野から多角的に捉えるとともに、法学および政治学等の知識を活用して科学的に分析、判断し、取り組むべき具体的な課題を明らかにすることができる。</p> <p>コミュニケーション能力【行動力】</p> <p>多様性や包摂性といった共生・共創のための国際感覚とともに、グローバル化および情報化する社会で多様な人々と協働して活躍できるコミュニケーション能力を身につけ、持続可能な社会の実現に向けて、自らの意見を論理的に展開し、的確に行動することができる。</p> <p>課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力【自己実現力】</p> <p>持続可能な社会の実現に向けて、現代社会に生起する諸事象から法学および政治学に関連する課題を発見し、生涯にわたって自己と他者または社会とのつながりの中で調和を保ちつつ、自ら判断し解決しようとする姿勢と解決のための基礎的な能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-low.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>法学部法学科には、昼間に授業を行う「昼間コース」と主として夜間に授業を行う「夜間主コース」が置かれています。本学部の教育課程は、国際社会や地域社会の多様な課題に取り組むことができ、かつ、人間性に富む基礎的教養の修得を目標とする教養教育科目および社会の実践的課題に対応できる法的思考力（リーガル・マインド）の修得を目標とする専門教育科目から編成されており、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成を企図しつつ、学生の皆さんが、自分の関心や目的に沿って、法学・政治学を効果的に学ぶことができるように、多様性のある教育科目が段階的・体系的に編成されています。</p> <p>まず法学科昼間コースでは、1年次に入門科目を中心とした「法政基礎科目群」を、2年次には「法政共通科目群」を、3・4年次には「グローバル法政科目群」を配当し、これらをすべての学生が履修する科目群として位置づけています。また、主に3年次以降に配当される専門科目については、公務員を目指す「公共法政コース」、民間企業を目指す「企業法務コース」および法律専門職を目指す「法律専門職コース」の3つの履修コースにそれぞれコア科目を置き、学生の皆さんの体系的な学習をサポートしています。</p>

昼間コースでは、法学・政治学についての理解を深め、様々な問題を発見する能力、自ら考え表現する能力、共に考えるコミュニケーション能力を養うことを目的とする少人数教育を各学年で実施しています。1年次生には、学生生活上のガイダンスを兼ねた法学・政治学の入門のための少人数科目として「法政基礎演習」が開講されています。2年次に開講される「演習Ⅰ」では、法学・政治学の主要な分野について、参加者の個別報告と討論を通じて、3・4年次での学習を進めるための基礎づくりの場を提供します。「演習Ⅱ」は、既に一定の学習を進めた3・4年次生のための演習で、法学・政治学の様々な専門分野について、少人数での報告と討論を通じて、講義で得た専門的な知識をさらに深めていくことができます。

法学科夜間主コースの教育課程は4年間一貫教育で、1年次から専門科目を履修することができ、4年次まで系統立った学習ができるよう配慮された科目配当がなされています。本コースでは、地方創生の中心を担う人材育成を目的とする「地域法政プログラム」を設けており、2年次および3・4年次には「共通科目」の設置など、本学部と経済学部の相互履修を標準とするカリキュラムを導入しています。また、1年次に「法政基礎演習」、3・4年次に「演習」が開講されるほか、多くの授業が少人数クラスで行われています。専門科目については、45単位まで昼間コースの講義を履修することができ、多様な学習環境に応じたカリキュラムを選択することができるようになっています。

法学部法学科では、すべての科目について授業の概要、学習目的、到達目標、授業計画、成績評価方法を明記したシラバスを示しています。これによって学生のみなさんは、自らの将来設計に基づいて適切な科目履修を行うことができます。

教養教育科目および専門教育科目の成績評価においては、試験、レポート、授業中の報告・発表、授業への参加状況など授業の形態に応じて組み合わせた方法によって、法学および政治学その他当該科目に関する基礎的知識を修得していること、修得した知識を活用して問題を発見・解決するために必要な思考力、判断力、分析力、発信力を身に付けていることが厳格に判定されます。

人間性に富む豊かな教養【教養】

- 教養教育科目として、導入教育科目、知的理解科目、実践知・感性科目、汎用的技能と健康科目、言語科目、高年次教養科目を開講します。
- 制度や組織等の基礎にある社会、生命、および自然に関する知識や考え方を深め、現代社会が提示する多様な問題への関心呼び起こすために、知的理解科目、高年次教養科目を開講します。
- 豊かな感性を育み、現代社会の諸問題を多角的に捉える基盤を形成し、公正な判断力と倫理観を高めるために、実践知・感性科目、導入教育科目、高年次教養科目、法政基礎科目群を開講します。

リーガル・マインドの涵養【専門性】

- 法や政治等に関する実践的課題に対応できる法的思考能力（リーガル・マインド）を身につけ、具体的な問題に解決策を提示することができるようになるために、法学・政治学を学ぶ専門教育科目を開講します。
- 国家や社会の制度や運営に必要な法学、政治学の基礎的な知識を修得するために、講義科目を開講します。
- 講義科目で得た専門的な知識を具体的な問題に適用するとともに、さらに深い理解と知識の修得を実現するために、演習科目を開講します。

情報を科学的に分析する能力【情報力】

- 現代社会の諸問題を歴史的、国際的、比較法的な視点から分析するために必要な基礎的知識を修得するために、グローバル法政科目並びに法および政治の歴史や哲学に関する専門教育科目を開講します。
- 法学および政治学の知識を活用して、現代社会の諸問題を科学的に分析、判断し、取り

組むべき具体的な課題を明らかにする実践的な能力を修得するために、自ら資料を収集し、その成果の報告に基づいて討論を行う演習科目を開講します。

コミュニケーション能力【行動力】

● グローバル化および情報化する社会において、多様な世界観を理解し、様々な価値観を尊重しながら、自らの意見を論理的に展開する能力を修得するために、実践知・感性科目および双方向型の演習科目を開講します。

● 多様な価値観を有する人々と協働して活躍できるコミュニケーション能力と、そのために必要な実践的技能と基盤を修得するために、言語科目および汎用的技能と健康科目を開講します。

課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力【自己実現力】

● 自らが直面する問題に向き合い、自ら解決する意欲を高めるために、幅広い知的理解科目および専門教育科目を開講します。

● 自らの将来設計に基づいて順序立てて学修を進め、各自が将来直面しうる法学および政治学に関連する課題を発見し、それを創造的に解決する意欲と能力を身につけるために、講義科目を体系的に展開します。

● 課題解決に向けて自ら調査を行い、論理的に調査の結果を報告し、議論を通して創造的な解決策を検討する能力を身につけるために、演習科目を開講します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://www.okayama-](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-low.pdf)

[u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-low.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-low.pdf)）

（概要）

教育内容・特色

持続可能な社会の実現に向けて、現実社会で生起する諸課題に対して柔軟かつ適切な判断を行うため、法学および政治学を学ぶことを通して、以下の能力の発展・向上を目指します。

1. それぞれの法分野について基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に課題を解決できる法的思考能力（リーガル・マインド）
2. 政治や社会について多角的な視点から理解し、現代社会に生起する諸課題を自ら発見し解決しようとする意欲と能力
3. 国際社会に関する理解をもち、グローバル化・情報化する社会で活躍できるコミュニケーション能力と情報活用能力

求める人材

高校までの学習を通じて形成された学力を重視しつつ、以下のような資質をもった学生を求めます。

1. 社会に対する広範な関心を持ち、幅広い視点から柔軟にものごとを考えようとする人
2. 自ら課題を発見し、ねばり強く考え、自ら判断していこうとする人
3. 持続可能な社会の実現といった世界の動きに関心があり、グローバルな視点をもって活躍したいという意欲のある人

また、将来の職業との関係では、裁判官、検察官、弁護士などの法律専門職や公務員、民間企業などで活躍することを志望する学生を歓迎します。

入学後の学修のため、国語・外国語の2教科を中心に読解力、思考力、表現力を養い、まんべんなく基礎学力を積み上げ、着実に学習する態度を身につけていることが望まれます。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、経済学及び経営学・会計学に関する専門の学術を教授研究し、社会的要請に応える人材を養成することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>岡山大学経済学部は、学部の教育理念と養成する人材像に基づき、所定の期間在学し、定める授業科目を履修して所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身につけたものと認定し、学士（経済学）の学位を授与する。</p> <p>人間性に富む幅広い教養【教養1】</p> <p>持続可能な開発目標（SDGs）が標榜する多様性と包摂性のある社会実現のために、一人の社会人として、人間と社会、自然と生命に関する諸課題に対して、主体的に関わっていくことができる豊かな人間性に富む幅広い教養を身につけている。</p> <p>専門性を支える深い教養【教養2】</p> <p>経済・経営・会計の専門性を活かすために必要な、人間や社会に対する関心と理想を有し、論理的な思考と大局的な判断ができる深い教養を身につけている。</p> <p>経済・経営・会計に関する専門的な分析力と応用力【専門性】</p> <p>経済・経営・会計の専門知識に基づいて、社会が直面する多様な課題を発見・分析し、解決するための的確な応用力を身につけている。</p> <p>情報を収集し効果的に活用できる能力【情報力】</p> <p>必要とされる情報を収集・選択・分析し、その成果を適切かつ効果的に活用・発信する能力を身につけている。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】</p> <p>グローバル化と共生の時代にふさわしい国際感覚と言語・コミュニケーション能力を修得し、地域や国際社会、諸組織をはじめ、多様な人間・社会関係においてもそこに関与する人々を積極的にリードする行動力を身につけている。</p> <p>自己実現に向けて専門的知識を生かし目標を追求する力【自己実現力】</p> <p>将来にわたって主体的・持続的に学ぶ姿勢を維持し、修得した専門的知識を生かして自己の目標実現に向けて歩み続けることができる能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>（1）教育課程の編成：</p> <p>経済学部は、本学部のディグリー・ポリシーに掲げる学士力（人間性に富む幅広い教養、専門性を支える深い教養、経済・経営・会計に関する専門的な分析力と応用力、情報を収集し効果的に活用できる能力、時代と社会をリードする行動力、自己実現に向けて専門的知識を生かし目標を追求する力）を養成するために、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供します。</p> <p>本学部では、入学から卒業まで一貫した少人数教育と主体的学修重視の方針のもと、学生それぞれの関心や目的に応じた的確に科目履修できるようにカリキュラムを編成しています。</p> <p>（2）教育・学修方法：</p> <p>1年次には教養教育科目と専門基礎科目、2年次からは専門教育科目、3年次には専門教育科目に加えて高年次教養科目を履修します。専門教育科目は複数の科目群を構成し、それらを選択して履修することで、目的に応じた専門知識や考え方が修得できます。さらに、基礎研究や卒業研究などの演習科目も1年次から4年次にわたって提供され、講義で修得</p>

した知識を演習で実践することによって、より深い理解に繋げることができます。

（3）学習成果の評価の方針：

講義科目の学習成果は、科目の特徴に合わせて、試験・レポート・授業での課題等により評価します。基礎研究や卒業研究は、課題への取り組み状況や成果の発表状況等により総合的に評価します。キャリア教育科目は、レポート・授業での課題等により評価します。

◆人間性を育む幅広い教養〔教養1〕

人間と社会、自然と生命の諸課題に積極的・意欲的に関わっていくことのできる豊かな教養を涵養するために、教養教育科目の卒業要件単位数を適切に定めています。「知的理解」の科目区分に関しては、人文社会・自然科学・生命科学の各科目群から、幅広く履修するように選択必修（クロス履修）を課しています。全学ガイダンスと学部ガイダンス科目「修学の方法」、英語科目を必修とし、他の外国語科目も広く履修できるようにしています。

◆専門性を支える深い教養〔教養2〕

経済・経営・会計の専門性を支える基盤を作るため、1年次に専門基礎科目を提供します。経済学部の教育・研究がカバーする領域は広く、1年次は、各専門分野に共通する専門基礎科目群から幅広く履修することによって、経済・経営・会計全般に関する基礎知識を修得し、2年次からの本格的な専門教育に備えます。

◆経済・経営・会計に関する専門的な分析力と応用力〔専門性〕

（昼間コース）

2年次以降の専門教育科目は、専門知識を体系的かつ多面的に修得できるように5つの専門科目群とアクティブ・ラーニング主体の実践型科目群、外部講師による社会連携型科目群等の合計8つの科目群（ユニット）から構成され、それらを大科目群（モジュール）に従って履修すると専門に応じた学修目標に到達します。同一モジュール内の科目を履修（系統履修）していくと領域内の専門性を高めることができ、複数のモジュールに跨って履修（横断履修）すると専門知識を体系的に広げることができます。具体的なモジュールとして、経済分析モジュール、政策モジュール、国際比較モジュール、組織経営モジュール、会計学モジュールがあります。1年次から履修する基礎研究や、3・4年次で履修する卒業研究などの少人数教育授業では、修得した専門知識に基づいて、多様な社会課題を発見・分析し、解決するための応用力を身につけます。

（夜間主コース）

1年次の専門基礎科目によって経済学・経営学・会計学の基礎知識を体系的に学修した後、2年次以降の専門教育科目および3年次の演習科目を通して、専門性を高めていきます。意欲のある学生は1年次から専門教育を受けることができるように「テーマ学修」の制度を設けています。さらに2021年度からは法学部夜間主コースと共同で地域人材育成プログラムを立ち上げ、両学部の一定数の専門教育科目を共通専門科目と位置づけた教育プログラムを編成しています。

夜間主コースは2コース制をとっており、総合学修コースは経済・経営・会計分野の幅広い知識と専門性の修得を目指し、実践力強化コースは経済・経営・会計分野の専門性と法学分野の専門性の修得によって実践力強化を目指せるように、卒業要件を設定しています。

◆情報を収集し効果的に活用できる能力〔情報力〕

情報やデータを用いて経済・経営・会計の分析ができるように、教養教育科目「数理・データサイエンスの基礎」（夜間主コースは「情報処理入門」）を必修とし、関連する発展科目を2年次の専門教育で提供します。3年次からの演習科目や卒業論文では、収集・分析した情報を適切かつ効果的に活用するためのトレーニングを積むことができます。

◆時代と社会をリードする行動力〔行動力〕

世界のさまざまな国や地域の経済・経営を取り上げる多くの専門教育科目が、国際感覚の育成に役立ちます。アクティブ・ラーニングをベースとした「実践コミュニケーション論」をはじめ、社会や組織の在り方を考える専門教育によって、コミュニケーションと共生に必要な能力の獲得をめざします。演習等の少人数・双方向型の科目は、実践教育の場を提供します。実践型英語科目としては「各国経済・ビジネス事情 in English 1・2」等が

専門教育科目として提供されます。海外の大学との間に各種交換留学制度もあり、留学先の修得単位を互換認定することができます。「海外特別演習」では、短期の語学研修や海外派遣のプログラムを複数提供しています。

◆自己実現に向けて専門的知識を生かし目標を追求する力〔自己実現力〕

経済学部では、将来にわたって主体的・持続的に学ぶ姿勢を維持し、修得した専門知識を生かして、自己の目標実現に向けて歩み続けることができるように、複数のキャリア教育科目を提供しています。学部ガイダンス科目「修学の方法」では、卒業後の人生設計も考えます。「就業体験実習」（インターンシップ）も、経済学部が企業や官公庁と協力して提供するキャリア教育科目です。また、外部講師による複数の特殊講義科目は、社会で活躍するリーダーの気概と識見に直接触れることができ、仕事を通じた自己実現への意欲を高める機会となっています。

◆その他

経済学部では、教員が各学年の学生を数名ずつ担当して勉学や学生生活の状況を把握し、履修や進路等の相談に応じる指導教員制を敷いており、キャリア教育委員会や学生支援委員会がこれをバックアップしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf）

（概要）

教育内容・特色

経済学・経営学・会計学の専門知識と分析力を身につけるための講義科目に加え、アクティブ・ラーニング（AL；学生自ら積極的に参加する授業形態）を中心とする演習・研究等の少人数・双方向型科目群が用意されています。これらの特色ある教育内容により、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成しています。

経済学部には昼間コースと夜間主コースがあり、それぞれのコースに特色を持ったカリキュラムが用意されています。

求める人材

経済学部は、以下のような学生がそれぞれの個性を生かしながら学び、将来の進路・目標を考えてゆくことを期待します。

1. 経済問題・社会問題・持続可能な社会の実現に関心がある人
2. 論理的に考えること、もしくは数学を用いた分析が好きな人
3. 発言や行動が積極的で、民間企業、官公庁、NGOやNPO等の組織の中でリーダー的な役割を果たしたいと望む人
4. 英語をはじめとした外国語を駆使して、国際的な舞台で活躍したいと希望する人
5. 弱者にたいする思いやりと社会における公正を大切にして、人々のために働く情熱を持った人
6. 本学部での主体的な学修を通じて、持続可能な社会の実現に向けた新たな価値を地域・世界と共創する能力を身につけることに強い意欲を持つ人

なお、入学後の学修のため、入試方法に関わりなく、国語・数学・外国語の各教科科目に関しては、高等学校卒業レベルの基礎学力を有していることが求められます。

学部等名 理学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、自然科学の基礎を教授研究し、創造的、思想的及び分析的能力を備えた有為な人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf）

(概要)

岡山大学理学部は、所定の期間在学し、所属学科の定める授業科目を履修して所定の単位を取得し、以下のディグリー・ポリシーに掲げる学士力を身につけた学生に、学士（理学）の学位を授与する。

人間性に富む豊かな教養【教養】

自然や社会の多様な問題に関心を持ち課題を発見し、幅広い視野から論理的に物事を捉えることができる豊かな教養を身につけている。

自然科学の理解と活用につながる専門性【専門性】

様々な自然現象の背後にある普遍的な法則や原理を理解するとともに、修得した知識を体系的に組み立て、様々な問題の発見とその解決に意欲的に取り組むことができる。

効果的に活用できる情報力【情報力】

自ら情報を収集し、的確に分析・判断し、正しく活用できる能力を身につけている。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

国際的に活躍できるコミュニケーション能力を有し、持続可能な社会を目指す中での貢献と役割を主体的に見出し、的確に行動できる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

大学で培った知識と経験を生かし、自己を客観的に分析・評価できると共に、自己の成長の目標を設定し追求することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf）

(概要)

(1) 教育課程の編成：

理学部では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養、自然科学の理解と活用につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯に亘る自己実現力）を備えた人材を育成するため、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

本学部では、各学科とも4年間の一貫した教育コースを設定しています。また、各学科の教育コースの中の3プログラムとして、科学の最先端で活躍できる研究者・技術者・教育者を目指すための「フロンティアプログラム」、各学科の開講科目を中心に履修し高い専門性を習得するための「専門力プログラム」、学科横断的に学際領域を幅広く学び新しい研究分野で活躍することを目指す「学際プログラム」を設定し、学修者の志望に合わせた主体的な学びでディグリー・ポリシーに掲げる学士力を身につけていきます。

1年次には、全学規模で開講される教養教育科目に加え、理学部全学科共通の専門基礎科目および各学科で開講する専門科目を通じ、大学で自然科学を学んでいく上で基礎となる知識や技術について学びます。

2年次では専門科目の割合が高くなります。そして、「フロンティアプログラム」「専門力プログラム」「学際プログラム」から選択したプログラムの履修が始まります。

3年次には、より高度な内容の講義や学際分野の講義が設定されています。また、専門教育科目で修得した知識を自ら実践・確認し、より深く理解するための実験および演習科目も設定されています。

4年次には、「課題研究」に取組み、社会の要請に応える専門知識と実践的能力が獲得できる内容になっています。

(2) 教育・学修方法：

各学科の履修プログラムで定められた卒業要件を満たすように、1年次から4年次までの必修科目・選択必修科目・選択科目を履修することにより、各学科の専門分野の知識や技能・考え方を修得します。専門分野の教育では、講義に加え、演習・実験・実習・ゼミナールなどの少人数教育の利点を生かした実践的な授業も多数設定されており、専門科目で修得した知識を自ら実践・確認し、より深く理解できるような教育内容となっています。4年次で履修する「課題研究」では、配属された研究室において課題研究やゼミナールを中心とした密度の濃い専門教育を提供しており、先端的な研究を自ら実施することで、社会の要請に応える自然科学の専門知識と課題発見・問題解決の実践的な能力を獲得できる

内容になっています。

(3) 学習成果の評価の方針：

講義・演習の学習成果は、授業の特性に合わせて、試験・レポート・授業での課題等により、実験や実習では、授業での課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。課題研究では、課題への取り組み状況や成果等の発表の状況により評価を行います。また、学期ごとに各学生の学習状況を確認し、必要に応じて個人指導を行っており、一定の単位修得条件を満たした学生が、4年次進級・学位認定されます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf）

(概要)

教育内容・特色

理学部は、数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科の5学科に加え、臨海実験所、界面科学研究施設の2附属施設から構成されています。理学部では、4年一貫の少人数教育を採用しています。1年次では教養科目を学びつつ、各学科で基礎的な専門科目を学びます。2・3年次では研究活動に関連する専門科目を学び、4年次で特定のテーマに沿った課題研究（卒業研究）やセミナーなどを通じて専門知識を究めます。これらの教育を通じて、物事や身のさまざまな事象の本質をつかみ、論理的に思考できる能力を養成します。

求める人材

理学部では、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を意識しながら、高等学校等での学習により、以下のような意欲と能力を伸ばしてきた人を求めています。

1. 自然科学の基礎を学び、その知識や能力を社会で活かしたいと考える人
2. 自然現象を原理や法則から理解したいと考える人
3. 真理探究への情熱をもっている人

また、入学後にディグリー・ポリシーに掲げる5つの学士力に基づく以下のような能力を身に付けられる人を求めています。

1. 自然科学の幅広い分野の基礎知識を修得し、広い視野と柔軟な研究能力を身につけ、独創的な研究を推進できる能力
2. 修得した専門分野の知識を活用する能力を持ち、自らが新しい分野に積極的に挑戦できる能力
3. 幅広い教養と英語によるコミュニケーション能力を身につけ、グローバル化が進むこれからの世界で活躍し、広く国際社会に貢献できる能力

入学後の学修のため、各学科が定める科目の内容を修得していることが望まれます。各学科のアドミッション・ポリシーを参照ください。

学部等名 医学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

(概要)

本学部は、医の倫理に徹し、科学的思考法と高度の医学的知識を体得し、社会的信頼を得るに足る臨床医及び医学研究者を養成すること並びに高い臨床能力を持つ医療技術者及び医療技術科学の研究者を養成することを教育目的とし、もって人類の健康と福祉に貢献することを使命とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-med.pdf）

<p>(概要)</p> <p>岡山大学医学部は、所定の期間在学し、所属学科の定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下の学士力を基本的に修得した学生に学位を授与する。</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】</p> <p>医療人、医学・保健学研究者として世界の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かで国際的な教養を身につけ、病める人や立場・職種の異なった人の話を傾聴、共感できる。</p> <p>目的につながる専門性【専門性】</p> <p>時代に応じた健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、獲得した知識と能力を活かしてグローバルに活躍できる。</p> <p>効果的に活用できる情報力【情報力】</p> <p>自ら健康、医療、医学・保健学に関する情報を収集・分析し、効果的に活用し、グローバル社会に向けて情報発信、情報共有ができる。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】</p> <p>医療人、医学・保健学研究者としてのコミュニケーション能力を有し、グローバルマインドを持って、多職種医療チームの一員として責任を持った行動と状況に応じた柔軟な対応ができる。</p> <p>生涯に亘る自己実現力【自己実現力】</p> <p>世界に通用する医療人、医学・保健学研究者として、絶えず医療の質の向上に努め、自立して生涯に亘り自己の成長を追求できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-med.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>医学部ディグリー・ポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯にわたる自己実現力）を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人、医学・保健学研究者を育成するため、教養教育科目と専門教育科目とで構成される体系的なカリキュラムを提供しています。教育課程全体を通じた学修成果により、国家資格の受験資格を取得できます。学部カリキュラムは、大学院博士課程への進学や卒後研修に連動しており、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成に取り組んでいます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-med.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育内容・特色</p> <p>医学部は、高度な教養、専門性、情報力、行動力および自己実現力を身につけて、未来の医療を担い医学をリードする医療人と医学・保健学研究者を育成します。医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、その育成には、医学に関する知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とし、その実現に向けて特色ある教育を行っています（詳細は各学科の「教育内容・特色」を参照ください）。</p> <p>求める人材</p> <p>医学部では、未来の医療と医学を支える医療人および医学・保健学研究者にふさわしい人として、各学科・専攻で実施される専門教育の学修に必要な基礎学力と語学力、コミュニケーション能力を有し、医療人および医学・保健学研究者としての知的探究心と高い志を持ち、入学時点で相応した倫理観と豊かな人間性を備えた人を求めています。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です（詳細は各学科の「求める人材」を参照ください）。</p> <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>各学科のアドミッション・ポリシーを参照ください。</p>

学部等名 歯学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、広く知識を授け、深く歯学の学識・技能の教授、研究を行い、高い人格を備えた応用能力豊かな有為な人材の育成を図り、もって人類の福祉及び世界文化の進展に寄与することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-den.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>岡山大学歯学部は、所定の期間在学し、学部の定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下の歯学部ディグリー・ポリシーを身につけることができたものに卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>人間性に富む豊かな教養【教養】</p> <p>自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた歯科医療人としての豊かな教養を活かす能力を身につけている。</p> <p>目的につながる専門性【専門性】</p> <p>医療に対する社会の要請と歯科医学の進歩に、主体的に、独創的に対応できる。また、高度な医療福祉の担い手となりうる歯科医師として、専門的知識・技能・態度を以って活動できる。</p> <p>効果的に活用できる情報力【情報力】</p> <p>先端的な歯科医学、歯科医療の発展を担うための問題発見、情報収集・分析・応用能力を身に付けると共に、成果を効果的に発信できる。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】</p> <p>歯科医学と歯科医療技術を基盤に、地域社会から国際的な場に至るまでの幅広い領域で活躍できる。</p> <p>生涯にわたる自己実現力【自己実現力】</p> <p>社会・文化活動等に親しむことを含めて、自立した個人・社会の一員として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯にわたって歯科医療、歯科医学を志す者として自己の成長を追求できる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-den.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>（１）教育課程の編成</p> <p>歯学部の教育科目は6年一貫の授業プログラムで行われ、卒業後歯科医師の資格を取得するための歯科医師国家試験に合格するだけでなく、岡山大学ディグリー・ポリシーに掲げる学士力を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人、研究者育成のために、特色あるカリキュラムを策定しています。</p> <p>（２）教育・学修内容及び方法</p> <p>1年次では外国語・リベラルアーツなどの教養教育科目に加え、歯学部の各専門分野の概要を学びます。また、実際に医療施設等の見学や体験学習により、医療人としての自覚を養う科目も必修科目としています。加えて、小グループによるチュートリアル授業で問題発見・解決に取り組む科目では、チームで協働することを学びます。</p> <p>2年次では、教養教育科目を学びつつ、専門教育科目として基礎系科目を学びます。講義に加え、実習・演習などで実践的に知識や技術を身につけます。</p> <p>3年次では、講義・実習・演習で基礎系科目の理解をより深めるとともに、2カ月程度、基礎あるいは臨床の研究室（学外を含む）に所属し、各々研究に取り組むことによって問題解決能力及び総合的応用判断能力を養います。また、留学をして海外の歯学部の聴講生となる機会も設けられています。</p>

4年次からは、これまで学修した基礎系科目の知識を礎とし、臨床系科目を履修します。講義及び実習・演習により歯科医師になるために必要な知識・技能を実践的に学びます。また、全身的な医学・疾患に関する知識を修得するため、隣接医学を講義形式で学びます。

5, 6年次では、臨床系科目を修得後、全国共用試験（CBT・OSCE）を経て、診療参加型臨床実習を行います。実際に臨床の場において指導教員の指導のもとで診療を行い、診療の実践能力を身につけるとともに、医療人としての心構えや倫理観を培います。そして、6年生の最後に、歯学部6年間の集大成として国家試験を受験することになります。大学教育としてのカリキュラムの成果は、国家試験の受験に十分耐えられるものになっています。

(3) 学習成果の評価の方針

それぞれの教育科目の評価は、身につけてくる能力を的確に測定できる多様な方法で行われます。すなわち学士力の基盤となる知識の評価は試験やレポートで、「情報力」「行動力」「自己実現力」の評価はポートフォリオやピア評価、ルーブリック評価等も加えて総合的に行います。こうして卒業時のディグリー・ポリシー達成に向けて着実に学び進むことができます。

人間性に富む豊かな教養【教養】

多様な社会、学問領域に関心を持ち、知的好奇心を養うために、教養教育科目として、1, 2年次で、知的理解、言語、実践知・感性、汎用的技能と健康、導入科目、そして3年次では、科学技術の成果を適切に人と社会に役立てるために必要な基本知識を学ぶ高年次教養科目「レギュラトリーサイエンス入門」を設定しています。専門教育科目においては、1年次に、「自己表現力演習」や「モノ・コトデザイン演習」で自ら問題を発見し解決する能力を涵養し、「早期見学実習」で将来の医療従事者としての自覚を喚起します。また、3年次の「疫学理論」では医療・歯科医療及び医学・歯学研究における倫理を学びます。さらに、3年次の「医療コミュニケーション学演習」では、講義と演習を通して対人コミュニケーションの知識、技術を修得します。

目的につながる専門性【専門性】

歯学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯科医学教授要綱を基本とし、歯科医師になるために必要な知識・技能・態度を修得するための臨床系専門教育科目と、その礎となる基礎系専門教育科目を設定しています。まず、本学が独自に構築した、早くから医療人としての自覚を持たせるための「早期見学実習」を1年次に実施し、チュートリアルを含む様々なアクティブラーニングの授業を初年次教育から取り入れます。2年次から4年次までの基礎・臨床専門教育においては、知識をより深く理解し、実践する能力を培うための講義と実習を並行して行います。また、4, 5年次にかけて、歯科領域だけでなく、全身的な医学・疾患に関する知識を修得するため「隣接医学」を開講します。健康長寿社会の実現に向けて、4, 5年次で「講義シリーズ」として、生活習慣病や急性期医療、在宅介護医療に関する講義をe-learningを活用して学習します。また、5年次の「死生学・認知症」では、医療人として必要な哲学観、倫理観に基づき、患者の病床、終末期に寄り添うための知識を養います。さらに5年次から6年次にかけては、岡山大学病院における実際の臨床の現場で教員の指導を受ける「診療参加型臨床実習」を組み入れた授業科目を展開するとともに、「在宅介護歯科医療実習」では、地域医療の現場で活躍する臨床講師の下で在宅歯科医療を体験します。

専門教育科目は1年次から開始し、4年次までに基礎系専門科目を行うとともに臨床系専門科目を5年次前半までに履修完了します。また臨床予備実習を経て、5年次から6年次まで臨床実習を行います。そして、統合型学習としての「総合歯学演習」を行い、6年間の歯学教育内容を整理します。

効果的に活用できる情報力【情報力】

歯科医師として必要な情報収集および分析能力、またそれらを活用・発信する能力や態度を育成する科目を設定しています。1年次の「チュートリアル」では少人数グループ学習で、呈示された課題について情報収集を行うとともに、その成果を発表する能力を養います。3年次の「介護施設を用いたPBL演習」では、介護現場を見学することで高齢患者の

問題点を抽出し、解決する能力を養います。また同じく3年次に行う「自由研究演習（研究室配属）」では各研究室に2ヶ月程度所属してリサーチ・マインドを育成するとともに、学生は情報収集および分析能力を身に付け、成果を効果的に情報発信できる力を修得します。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

歯科医学ならびに歯科医療技術を追求する姿勢を育成し、広く社会に還元するための行動力を養う科目を用意しています。基本的な自己学習力を身につけるために、1年次に「チュートリアル」を実施します。2年次から4年次での基礎系専門教育科目ならびに臨床系専門教育科目の基礎実習、診療参加型臨床実習で総合的な知識・技能・態度を学び行動力の基盤を育成します。さらに、3年次の「歯学国際交流演習（短期留学プログラム）」で国際性、「自由研究演習」で研究力、4、5年次での「講義シリーズ」ではe-learningを活用して地域社会との連携などの理解を支援します。5、6年次に行う「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」でチーム医療の一員としての歯科医師の役割、多職種連携について学びます。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

歯科医師は生涯に亘って日進月歩の医療知識を吸収し成長し続けること、即ち自己実現力を身につけることが要求されます。この学士力を育成するために1、2年次で、スポーツ、文化活動を含む教養教育科目を設定しています。さらに1年次からチュートリアル教育を開始し、これを3年次の「介護施設を用いたPBL演習」、4年次の「EBMとプロフェッショナルリズムへの覚醒」で専門的に発展させ、自己の成長を追究する姿勢を養います。それに並行し、「自己表現力演習」、「早期見学実習」、「自由研究演習」、「歯学国際交流演習」によって、世界における自己の位置を認識できるよう学生を導きます。5、6年次での「診療参加型臨床実習」では、歯科医として臨床に深く携わる日々を享受し、その中で自らのあるべき姿への成長を実現して行ける能力、生活態度が身に付きま

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-den.pdf）

（概要）

教育内容・特色

歯学部の使命は良き歯科医療人を育成し、歯科医学を研究し、発展させることです。社会のニーズの多様化と国際化が急激に進む中で、歯科医療もますます高度化しつつあります。歯学部では「国民への高度な歯科医療の提供」と共に「先端的な歯科医療の研究開発」を重視した人材育成を行っています。歯科医学は幅広い総合的な学問領域です。歯学部では自然科学から人文、社会科学的な分野の教育、研究も行われています。文系・理系に関わらず、さまざまな特性をもつ学生が活躍できる学部です。

求める人材

次のような熱意のある人を求めています。

1. 歯学教育を受けるに十分な基礎学力を持っている人
2. 他人を思いやる優しさの高い倫理観を持っている人
3. 何事にも意欲的に取り組むことができる人
4. 生命科学・健康科学に強い好奇心と探究心を持っている人
5. 歯科医師として国民の健康、福祉・介護、さらには国際医療に貢献したいという明確な目的意識を持っている人

入学後の学修のため、高等学校段階までに習得してもらいたいこと。

高校では特定の科目に偏ることなく、授業に意欲的に取り組んでください。知識を習得するだけでなく、様々な社会の問題に関心を持ち、そして自分の考えをもって行動する姿勢は、歯学分野において社会に貢献するための基礎となる全人的な能力の育成に必要不可欠なものです。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、薬学に関する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させ、薬学に関連する社会的使命を正しく遂行し得る人材を養成するとともに、薬学に関し深く研究を遂行し、社会の発展に寄与することを目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-pha.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>岡山大学薬学部は、所定の期間在学し、所属学科の定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、人々の健康の持続的・恒久的な維持・増進に貢献できる以下の5つの学士力を身につけたものに学位を授与する。</p> <p>人間性・倫理観に富む教養【教養】</p> <p>自然や社会、健康や疾病など多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有している。また、医療や創薬に従事する人に相応しい、豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。</p> <p>目的につながる専門性【専門性】</p> <p>医薬品の適正使用や開発研究を推進する実践的能力を発揮するため、生命科学、疾病、医療に関する幅広い専門知識と技能を身につけている。</p> <p>情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】</p> <p>医療領域のみならず、自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し、正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できる。</p> <p>時代と社会をリードする行動力【行動力】</p> <p>医療領域のみならず、社会生活に求められるコミュニケーション能力、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有している。また、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、時代と社会をリードする行動ができる。</p> <p>生涯に亘る自己実現力【自己実現力】</p> <p>スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて、生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受する。また、薬学や生命科学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で自己研鑽の成果を共有することができる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-pha.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>薬学部では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる5つの学士力（人間性・倫理観に富む教養、目的につながる専門性、情報を的確に収集・活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯に亘る自己実現力）を備え世界の多様な課題に取り組み、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できる人材を育成するため、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。</p> <p>1・2年次には、外国語、リベラル・アーツ、スポーツなどの全学規模で開講される教養教育科目に加え、各学科で開講する専門基礎科目やガイダンス科目および専門科目を通じ、専門教育の基本となる知識や技術について学びます。3年次以降、各学科でより専門性の高い専門教育科目を履修するとともに、それまでの専門教育科目で修得した知識を、自ら実践・確認しより深く理解するため、実習科目が設定されています。さらに、卒業研究として各研究分野の最先端の研究テーマに取り組むことにより、それまで学習した理論、技術、知識を実践的問題に応用して、専門知識の修得のみならず課題探求能力、行動力等も身につけさせる教育を行っています。学習成果は、授業の特性に合わせ、試験・レポート・授業での課題等により、実験や実習では、授業での課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。課題研究では、課題への取り組み状況や成果等の発表の状況により評価を</p>

行います。また、学期ごとに各学生の学習状況を確認し、必要に応じて個人指導を行っており、一定の単位修得条件を満たした学生が、進級および学位を認定されます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-pha.pdf）

（概要）

教育内容・特色

薬学とは、以下の各要素からなる、複合的な学問分野です。

- 1) 解析：生命現象、疾病原因の分子基盤を解き明かす。
- 2) 創出：機能を制御できる物質を創出する。
- 3) 活用：開発・発見された物質の活用法を最適化し、さらには新たな活用の方策を創案する。

岡山大学薬学部では、これらの活動を担う人材を育成するために、関連する基礎、応用の科学、技術を修得させ、また自ら新しい知を創生するための、観察力・直観力・分析力・論理力・研究遂行能力・発信力を練磨します。さらに、社会的使命・倫理観を持ってその成果を正しく活用し、持続的・恒久的な国際社会の発展に寄与する人材を育成します。

このため、薬学部では所属学生に対し、解析・創出・活用に共通の教育基盤を与え、薬学科では特にヒトに対する物質の「活用」を担うための専門的知識を身につけた人材（薬剤師）を、創薬科学科では、解析・創出・活用に係わる研究開発を担う人材を育成し、人々の健康の維持・増進に、持続的・恒久的に寄与することを目指します。

求める人材

薬学とは、化学、生物学、物理学などの基礎科学からバイオテクノロジーなどの応用科学までも含んだ生命科学であり、人間の生命・生活にとって有益な「薬」を開発、製造、適正使用するための科学技術の基本となる学問領域です。岡山大学薬学部では、入学後の修学に必要な、①高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を有する人、②専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力が期待できる人、を選抜します。入学後の学修のため、高等学校においては、理科（物理・生物のいずれかと化学）、外国語（英語）、数学、国語、地理歴史・公民を修得していることを望みます。さらに薬学部では、以下の要素を併せ持つ人を求めます。

1. 優れた倫理観を有する人
2. 目的意識と情熱を持っている人
3. 豊かな人間性を備え、人とのかかわりを積極的に持とうとする人

学部等名 工学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eng.pdf）

（概要）

岡山大学工学部は、幅広い視野を持ち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材を養成することにより、本学の理念「高度な知の創成と的確な知の継承」に貢献します。その実現に向けて、以下のような養成すべき自立した技術者・研究者像を設定し、学部一丸となり教育に取り組みます。

1. 豊かな教養と国際感覚を身につけており、多様化する社会の諸課題を発見・把握し、主体的に解決できる基礎能力と論理的思考力を発揮できる技術者・研究者
2. 工学を支える理系基礎知識、及び高度な専門知識や最先端の技術を修得しており、自己学習により発展できる素養を持つ技術者・研究者

3. 工学の特定専門分野だけでなく他の幅広い分野についても知識を有することにより、持続可能な社会実現のため、複合的な諸問題にも取り組む能力を有する技術者・研究者
4. 工学分野の課題探求・解決、創成のための実践能力、コミュニケーション能力とリーダーシップを身に付けている技術者・研究者

上記の理念に基づき、工学部に所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身に付けたものと認定し、学士（工学）の学位を授与する。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のため、技術者・研究者として、今日的課題についての知識、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けている。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けている。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けている。

技術的専門知識と社会課題の発見・解決能力【専門性2】

専門分野の技術を基に、社会課題を発見・把握し的確に理解した上で、課題解決のためのプロセスをデザインする能力を身に付けている。

社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】

先端的な工学の発展を担うため、社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、的確に理解する能力、成果を効果的に発信する能力を身に付けている。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けている。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め、リーダーシップを発揮し、成果としてまとめる能力を身に付けている。

生涯に亘る学習能力【自己実現力】

自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eng.pdf）

（概要）

1. 教育課程の編成方針

工学部では、ディグリー・ポリシーを満足する人材を養成します。そのために、社会的ニーズの変化に対して、柔軟かつ速やかに対応できるよう、教育組織は工学科の1学科制とし、その下に系及びコースを設置することにより、従来の学科の枠にとられない分野横断的な履修を可能としています。

カリキュラムは、教養教育科目と専門教育科目で構成します。教養教育科目は、社会人として幅広い知識を修得するための科目として設定しており、ある程度専門性を修得したうえで、専門性を生かすために有益となる幅広い知識を身に付けることができる高年次を対象とした科目も設けています。

専門教育科目は、特定の高度な知的及び技術的な専門分野を学ぶものとして、学部共通の専門基礎科目と、専門科目に分けており、専門科目はさらに系科目とコース科目に分けています。専門基礎科目は、各専門領域の基礎となる授業科目として位置付けており、工学の学問・研究に必要な基礎学力やグローバルな視点からの学際的な知識を身に付けるための科目を設定しています。系科目は系の共通科目で、各系の専門領域について知識と技術を修得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目です。コース科目では、系からさらに細分化された各コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるた

めの科目を設定しています。

工学部の教育カリキュラムの特徴は、次の4点にあります。①SDGsを理解するためのSDGs科目を学部共通の教養教育科目の必修科目として履修します。②Society5.0実現のために必要不可欠な素養である数理データサイエンス科目を、教養教育科目と専門教育科目の枠組みで、いずれも1年次に集中して履修します。③3年次にELSI（倫理的・法的・社会的な課題）教育のための科目を履修します。④大学院に進学する学生が博士前期課程の授業を4年次に先取り履修可能なシステムを設けています。

工学部では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる能力を身に付けるために、以下の方針により体系的な教育課程を編成しています。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現に必要な、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次には知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次に高年次教養科目を設定しています。特に、教養教育科目の区分で開講するSDGs科目、「数理・データサイエンスの基礎」、高年次教養科目のELSI教育科目では、Society5.0 for SDGsの実現に必要な基礎的能力を身に付けます。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次の高年次教養科目を設定しています。特に、1年次の専門基礎科目の「工学安全教育」、2年次以降のコース科目の演習や実習、3年次の高年次教養科目のELSI教育科目では、工学系人材として不可欠な技術者・研究者倫理能力を身に付けます。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学、自然科学及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解の区分で自然科学系科目、3年次に高年次教養科目を、専門教育科目では、1年次に専門基礎科目（専門英語は3年次に開講）、「数理・データサイエンス（発展）」を設定しています。また、低学年次に開講する系科目では、専門分野の基礎知識の活用能力を身に付けます。

技術的専門知識と社会課題の発見・解決能力【専門性2】

専門分野の技術を熟知し、それを社会課題の発見と解決に応用する能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目を提供します。特に、演習、実習、実験科目と「特別研究」では、Society5.0の実現につながる実践的な能力を身に付けます。

社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】

社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、解決した課題を効果的に情報発信する能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、1年次の「数理・データサイエンスの基礎」、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、「技術表現法」、4年次に「特別研究」を提供します。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力をを行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、言語科目、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、「技術表現法」、3年次に専門基礎科目で「専門英語」を提供します。また、海外での語学研修、海外留学やインターンシップ等のプログラムを提供します。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め、成果をまとめる能力を身に付けるために、2年次以降に

<p>専門科目の演習、実習科目、4年次に「特別研究」を提供します。</p> <p>生涯に亘る学習能力【自己実現力】</p> <p>自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に高年次教養科目、キャリア関連科目を提供します。特に、海外留学やインターンシップ等のプログラムの他、正課外のボランティア活動等の機会を積極的に利用することを推奨します。また、4年次に「特別研究」を提供します。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業科目とディグリー・ポリシーに掲げた能力の関係はシラバスに明示します。 ・学生は2年次からコースごとに定められたカリキュラムで学習します。また、3年次後半あるいは4年次から教育研究分野（研究室）に配属します。 ・3年次及び4年次へ進級するためには、系ごとに定めた要件を満たす必要があります。 ・ELSI教育科目として高年次教養科目「工学倫理」を提供します。 <p>2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針</p> <p>1年次には教養教育科目と専門基礎科目を、2年次からコースに分かれて、専門科目を中心に系科目とコース科目を履修します。3年次には専門科目に加えて高年次教養科目を履修します。なお、2年次のコース分け後も、他のコースの専門科目を履修することで幅広い知識が身に付けられるようになっています。3年次後半あるいは4年次には教育研究分野（研究室）に配属され、ゼミナールと「特別研究」により課題発見と解決に取り組みます。授業科目は到達目標に応じて講義、演習、実習、実験等により開講します。</p> <p>3. 学習成果の評価方針</p> <p>学習成果は、授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、到達目標の達成度を厳格に判定します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eng.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>工学部では、ディグリー・ポリシーを満足する人材を、カリキュラム・ポリシーに基づいて教育します。これらを達成すべく、次のような人が入学することを期待します。</p> <p>人間社会と自然界の調和などの多様な問題に対して強い関心を持ち、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えている人</p> <p>自ら好奇心を持って学習し、科学技術の発展とイノベーションの創出に主体的に取り組む意欲を持っている人</p> <p>様々な分野の人と積極的にコミュニケーションを図り、互いに協力しながら創造的・計画的に行動できる人 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を持つとともに、工学部における学習に関連する教科（数学、理科、外国語）に関する理解力と論理的思考による応用力を備えている人</p> <p>その他の高等学校において修得していることが望まれる教科・科目については、各系のアドミッション・ポリシーの「求める人材」を参照してください。</p>
<p>学部等名 環境理工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/R2.html）</p> <p>（概要）</p> <p>本学部は、広く環境理工学に関する知識を授け、深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的、創造的及び応用的能力を有する人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.est.okayama-u.ac.jp/entrance/dp.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>環境理工学部は、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会を構築するため、学際的な幅広い知識を身につけ、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力を持つ人材の養成を行っている。</p> <p>この理念に基づく環境理工学部ディグリーポリシーは、学生が本学部を卒業するにあたって以下の学士力を習得したことを保証するものである。</p> <p>人間性と洞察力に富む幅広い教養 【教養】</p> <p>人間社会と自然界の調和などの多様な問題に対して関心を持ち、問題解決に向けての論理的思考力・判断力、今までの考え方・手法にとらわれない創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた学際的な教養を身につけている。</p> <p>幅広い知識に支えられた深い専門性 【専門性】</p> <p>専門分野の知識・技術などを身につけ、さらに専門の枠を越えた広範な科目を修得し、それによって多面的な観点から環境問題に取り組むことができる。</p> <p>問題解決のための情報収集・発信能力 【情報力】</p> <p>環境問題を広く、そして深く考える視点に立ち、必要に応じて自ら情報を収集・分析し、それを問題解決に活かす能力を有するとともに、効果的に情報発信することができる。</p> <p>コミュニケーション能力とそれを活かした行動力【行動力とコミュニケーション能力】</p> <p>国際感覚や外国語能力と共に、様々な専門分野との学際的協力が行えるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る環境問題などの解決のために的確に行動できる。</p> <p>生涯に亘って学習し向上する能力 【生涯学習能力と自己実現力】</p> <p>自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯に亘って自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己の成長を追求できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.est.okayama-u.ac.jp/entrance/cp.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>環境理工学部は、環境数理学科、環境デザイン工学科、環境管理工学科、環境物質工学科の4学科から構成されています。本学部では、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会を構築するため、学際的な幅広い知識を身につけ、自然と人間が調和した豊かで快適な環境の創造に貢献する人材の養成を目的としています。このため、本学部ディプロマポリシーに掲げた学士力（人間性と洞察力に富む幅広い教養、幅広い知識に支えられた深い専門性、問題解決のための情報収集・発信能力、コミュニケーション能力とそれを活かした行動力、生涯に亘って学習し向上する能力）を修得することができる体系的なカリキュラムを編成しています。</p> <p>環境学の基礎を学ぶために、1, 2年次に履修する学部共通の専門基礎科目の中に環境科学系科目を設けています。専門科目では、各学科の専門領域の根幹をなす理論と技術に重点を置き、1年次から年次が進むにしたがい専門性を高め、教育の量と幅を広げています。4年次の卒業研究では、ゼミナールを重要視し、新しい発想を生み出し、発展させるための素養の醸成、得られた成果を効果的に情報発信するための技術の修得を目指します。このように、本学部では、教養教育、外国語教育、基礎科学系および環境科学系専門基礎教育、専門教育を有機的に結び付けた4年一貫の教育プログラムを提供しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：2021年度から募集停止のため公表していない）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育内容・特色</p> <p>本学部では、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会の構築に貢献することのできる人材を育成しています。このために、1, 2年次に履修する学部共通の専門</p>

基礎科目の中に環境科学系科目を設け、環境学の基礎を学びます。専門科目では、各学科の専門領域の根幹をなす理論と技術に重点を置き、1年次から年次が進むにしたがい専門性を高め、教育の質と幅を広げています。4年次の卒業研究では、ゼミナールを重要視し、新しい発想を生み出し、発展させるための素養を醸成するとともに、得られた成果を効果的に情報発信するための技術を学びます。これらの学習を通して修得した学際的な幅広い知識にもとづいて、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力の発展・向上を目指します。

求める人材

人間社会や自然界を取り巻く環境問題に対して強い関心があり、持続可能な社会の構築に貢献したいと考えている人

1. 環境問題解決のために必要な専門知識や技術を修得し、問題解決に主体的に取り組む意欲をもっている人
2. 他者と積極的にコミュニケーションを図ることができ、互いに協力しながら的確に行動できる人
3. 国際水準の英語力を身につけ、グローバルに活躍したいと考えている人
4. 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力をもつとともに、環境理工学部における学習に関連する科目（数学、理科、英語）に関する理解力と論理的思考による応用力を備えている人

学部等名 農学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、農学の分野において、総合的な教育研究を行い、多様化する社会の要請に応えるとともに、幅広い基礎学力と応用展開能力を備えた人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-agr.pdf）

（概要）

岡山大学農学部は、所定の期間在学し、学部の定める授業科目を履修して、所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を修得したと認定し、学士（農学）の学位を授与する。

人間性に富む豊かな教養【教養】

持続的な生物生産、環境保全など人類の生存にかかわる多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

目的につながる専門性【専門性】

農芸化学、植物科学、動物科学、および環境生態学にかかわる農学の専門的な学識と技術を身につけ、それを適切に応用することができる。

効果的に活用できる情報力【情報力】

農学的な知識と情報を収集・分析し、人を含む多様な生物の生存と福祉に有益な活動のために正しく活用すると共に、効果的に情報発信できる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

地域社会から国際社会にも通じるコミュニケーション能力と社会実践力を有し、地域、社会、民族、人種、国籍等のあらゆる境界を越えた全人類の生存と福祉に向けて行動できる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、自己の成長を追求するとともに、生涯に亘って学習意欲を持ち続け、農業の進歩と農学の発展に寄与できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-agr.pdf）

(概要)

① 教育課程の編成の方針

農学部では、総合農業科学科1学科体制の基に、教育コースとして農芸化学、応用植物科学、応用動物科学、環境生態学の4コースを設定しています。授業科目は教養教育科目(31単位必修)と専門教育科目(93単位必修、卒業論文18単位を含む)で構成されています。1年次では、「知的理解」「言語」「実践知・感性」「汎用的技能と健康」などの教養教育科目の履修と並行して「農学概論」や農学の基礎的科目、各コースの概論科目などの専門基礎科目を履修し、農学の幅広い基礎知識を修得します。自らの興味・適性を見極めた上で、2年次から各コースへ分属し、基礎的実験・実習・演習科目および各コースの専門科目を履修します。3年次から順次、研究ユニットに所属し、専門的講義、実験・実習・演習を履修し、専門的スキルを習得します。また、3年次には高年次教養科目「日本農業論」により農学部生として必須の幅広い農業情勢を学びます。4年次では、農学学修の集大成として「卒業論文」により新規実験や調査を含む高度な実践的研究経験を通して、主体的に学び、専門情報を論理的にまとめ表現・行動できる能力を涵養します。また、学部の4年間を通じて他大学と連携した各種のフィールド演習、「インターンシップ」、多様な産学官連携実践型特別科目を開講しています。このように、幅広い基礎知識の上に、それぞれの専門分野の知識・スキル・経験を積み上げることにより、多様化する社会のニーズに柔軟に対応し、幅広い領域で応用力を発揮し、自己実現できる人材を養成するカリキュラムを編成しています。

② 教育課程における教育・学習方法に関する方針

人間性に富む豊かな教養【教養】

自然・社会・人間に関わる多様な問題に関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力や行動力を育成し、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけるように、1、2年次主体の教養教育科目では、知的理解、言語、実践知・感性、汎用的技能と健康、導入教育を設定しています。

持続的な生物生産、環境保全など、人類の生存にかかわる多様な問題に対して関心を持つ農学的姿勢を育成するために、1年次の導入教育として「総合農業科学入門」、3年次の高年次教養科目として「日本農業論」などにより、生命現象・環境・人間生活の幅広い学習・見学・体験を通じて、農学に対する知的好奇心を向上させるとともに、農学の全容を理解します。

目的につながる専門性【専門性】

農学部は農芸化学コース、応用植物科学コース、応用動物科学コース、環境生態学コースの4つの教育コースから構成され、学生は2年次からいずれかの専門コースに分属し、学修します。全コースの概要を理解し、コース選択に際しての重要な情報を得るため、1年次後半に入門的な講義形式のコース概論(農芸化学コース概論、応用植物科学コース概論、応用動物科学コース概論、環境生態学コース概論)を履修します。農学の専門的な学識と技術を適切に応用する力を身につけるため、体系的に編成されたカリキュラムに基づいて2、3年次では各コースでの専門的講義に加えて、課題の探求と解決、実践する能力修得のため、実験・実習・演習を履修します。最新の食料・農業・農村政策に関する講義を提供し、「食料問題」、「環境問題」といった喫緊の課題に対応するための幅広い知見や実践的知識の修得を目指します。4年次では各教育ユニットにおいて専門的かつ実践的卒業論文研究を行い研究者、高度専門家としても通用する専門力を磨きます。

効果的に活用できる情報力【情報力】

1年次に教養教育科目にて情報リテラシーの基礎を、2年次に「応用生物データサイエンス」にてデータリテラシーの基礎を学修します。2、3年時の各コース演習には、各種の情報を収集、分析、処理し、まとめるスキル養成を含んでいます。4年時の卒業論文研究では、最新学術情報の収集、分析に加えて自らの実験・調査結果をまとめ、正確・客観的かつ分かりやすく伝えるための論文作成、プレゼンテーション経験を通じて効果的な情報発信能力を習得します。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

1年次の「農家体験実習」2、3年次の各コース実験・実習・演習、4年次の卒業論文

研究において、人を含む多様な生物の生存と福祉に向けた行動のために地域社会から国際社会にも通じるコミュニケーション能力と社会実践力を養成します。4年間を通じて、政府各省庁・自治体・NPO法人などの幅広い分野と連携し、参加者間でディスカッションを重ねながら、コミュニケーション能力の養成およびキャリアアップにつながる各種の産学官連携実践型科目を開設しています。国際社会にも通じるコミュニケーション能力を獲得するため、英語での講義、海外体験機会を提供しています。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

1, 2年次では、生涯に亘って自己の成長を追求できる幅広い教養に基づいた学士力を育成するため、スポーツや文化活動を含む教養教育科目を提供しています。1年次から3年次までの各種の実践型講義、実験、実習、演習および4年次の卒業論文研究では、農学部で修得した知識と経験をもとに、生涯に亘って学習意欲を持ち続け、実社会で農業の進歩と農学の発展に寄与できるよう専門性を基盤とした自己実現能力を習得します。

その他

各コースおよび研究ユニットで、学習目標を明示した履修モデルを作成して、コアとなる授業科目を明確にしています。教員の教授能力向上および授業改善を目的として、学生による授業評価アンケートの分析、授業のピアレビュー、各種教員研修を実施しています。

③ 学習成果の評価の方針

学習成果は、授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、到達目標の達成度を厳格に判定します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-agr.pdf）

（概要）

教育内容・特色

農学部総合農業科学科は、農芸化学コース・応用植物科学コース・応用動物科学コース・環境生態学コースの4コースで組織されています。

農学部では、学生が幅広い教育科目を通じて適性を判断し、興味を持てる専門のコースや研究ユニットを選択することができます。1年次には一般教養科目の履修と並行して、農業科学の概要を把握するための専門基礎科目を履修します。2年次には各コースに分属して、専門科目を通じて自分自身の適性を見だし、3年次から順次、研究ユニットに所属します。4年次には卒業論文作成を目的に実践的研究を経験します。

このカリキュラムは、農学に関する幅広い基礎知識を修得し、その上にそれぞれの専門分野の知識を積み上げていくことができるのが特色です。農学部はこのカリキュラムのメリットを活かして、多様化する社会的要請に対応し、幅広く応用力を発揮できる人材の養成を目指します。

求める人材

1. 高等学校で、教育カリキュラムに興味をもって取り組み、積極的な学習姿勢を確立した人
2. 大学で、広く農学を学んだ上で専門的な学習をしたいという強い意欲をもつ人
3. 将来、実社会で農学はもとより様々な分野で活躍する強い意欲をもつ人、または、技術者や研究者として活躍する強い意欲をもつ人
4. 高等学校卒業レベルの英語を含む幅広い基礎学力と理解力・思考力を有している人 入学後の学修のため、数学は以下の科目の内容を修得していることが望まれます。

数学（数学I, 数学II, 数学III, 数学A, 数学B）

また理科は以下の科目のうち複数の科目を履修していることが望まれます。

物理（物理基礎, 物理）, 化学（化学基礎, 化学）, 生物（生物基礎, 生物）, 地学（地学基礎, 地学）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html>

b. 教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
2人	534人	536人
各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法： https://soran.cc.okayama-u.ac.jp/search?m=home&l=ja	
c. FD（ファカルティ・デベロップメント）の状況（任意記載事項）		
<p>本学では、全学FD活動の一環として、毎年度「桃太郎フォーラム」を開催しており、教育技術の向上や教育改善（オンライン教育における授業戦略等）をテーマに教員研修を実施している。また、学修者主体の教育と指導の実践を進めるため1年間を通して順序だてて意図的な手法で習得する実践FDも実施している。さらに、各学部単位でも同様の取組を行っているほか、授業参観（ピアレビュー）等を実施し、教員間の意見交換の場を設けている。</p>		

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	175人	184人	105.1%	700人	796人	113.7%	人	人
教育学部	280人	295人	105.4%	1,120人	1,180人	105.4%	人	人
法学部	225人	236人	104.9%	900人	973人	108.1%	人	人
経済学部	245人	255人	104.1%	980人	1,087人	110.9%	人	人
理学部	140人	149人	106.4%	620人	692人	111.6%	30人	29人
医学部	269人	272人	101.1%	1,334人	1,361人	102.0%	5人	5人
歯学部	48人	48人	100.0%	313人	312人	99.7%	5人	5人
薬学部	80人	87人	108.8%	400人	430人	107.5%	人	人
工学部	610人	638人	104.6%	2,350人	2,561人	109.0%	30人	44人
環境理工学部				150人	196人	130.7%	人	人
農学部	120人	131人	109.2%	480人	533人	111.0%	人	人
合計	2,192人	2,295人	104.7%	9,347人	10,121人	108.3%	70人	83人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	161人 (100%)	23人 (14.3%)	121人 (75.1%)	17人 (10.6%)
教育学部	286人 (100%)	31人 (10.8%)	236人 (82.5%)	19人 (6.7%)
法学部	206人 (100%)	35人 (17.0%)	160人 (77.7%)	11人 (5.3%)
法学部 夜間主コース	18人 (100%)	4人 (22.2%)	11人 (61.1%)	3人 (16.7%)
経済学部	212人 (100%)	4人 (1.9%)	166人 (78.3%)	42人 (19.8%)
経済学部 夜間主コース	36人 (100%)	0人 (0%)	21人 (58.3%)	15人 (41.7%)
理学部	165人 (100%)	103人 (62.4%)	56人 (34.0%)	6人 (3.6%)
医学部 医学科	124人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	124人 (100%)
医学部 保健学科	158人 (100%)	29人 (18.4%)	123人 (77.8%)	6人 (3.8%)
歯学部	55人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	55人 (100%)
薬学部 薬学科	37人 (100%)	1人 (2.7%)	36人 (97.3%)	0人 (0%)
薬学部 創薬科学科	36人 (100%)	32人 (88.9%)	2人 (5.6%)	2人 (5.5%)
工学部	484人 (100%)	344人 (71.1%)	125人 (25.8%)	15人 (3.1%)
環境理工学部	160人 (100%)	73人 (45.6%)	83人 (51.9%)	4人 (2.5%)
農学部	121人 (100%)	67人 (55.4%)	44人 (36.4%)	10人 (8.2%)
合計	2,259人 (100%)	746人 (33.0%)	1,184人 (52.4%)	329人 (14.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】岡山大学大学院, 大阪大学大学院, 東京大学大学院, 神戸大学大学院, 京都大学大学院				
【就職先】アクセンチュア(株), 味の素(株), (株)NTTドコモ, 川崎重工業(株), 関西電力(株), 住友電気工業(株), 大成建設(株), 武田薬品工業(株), 東京海上日動火災保険(株), 東レ(株), トヨタ自動車(株), 日本銀行日本製鉄(株), 日本放送協会(株), 野村総合研究所, パナソニック(株), (株)日立製作所, 三菱ケミカル(株), 国家公務員, 地方公務員, 学校教員, 岡山大学, 岡山大学病院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	179人 (100%)	146人 (81.6%)	26人 (14.5%)	6人 (3.4%)	1人 (0.6%)
教育学部	287人 (100%)	260人 (90.6%)	23人 (8.0%)	2人 (0.7%)	2人 (0.7%)
法学部	237人 (100%)	214人 (90.3%)	18人 (7.6%)	4人 (1.7%)	1人 (0.4%)
経済学部	257人 (100%)	213人 (82.9%)	39人 (15.2%)	4人 (1.6%)	1人 (0.4%)
理学部	147人 (100%)	124人 (84.4%)	17人 (11.6%)	6人 (4.1%)	0人 (0.0%)
医学部	275人 (100%)	258人 (93.8%)	13人 (4.7%)	4人 (1.5%)	0人 (0.0%)
歯学部	48人 (100%)	47人 (97.9%)	1人 (2.1%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
薬学部	82人 (100%)	70人 (85.4%)	9人 (11.0%)	2人 (2.4%)	1人 (1.2%)
工学部	482人 (100%)	395人 (82.0%)	70人 (14.5%)	14人 (2.9%)	3人 (0.6%)
環境理工学部	159人 (100%)	141人 (88.7%)	13人 (8.2%)	4人 (2.5%)	1人 (0.6%)
農学部	124人 (100%)	114人 (91.9%)	8人 (6.5%)	2人 (1.6%)	0人 (0.0%)
合計	2,277人 (100%)	1,982人 (87.0%)	237人 (10.4%)	48人 (2.1%)	10人 (0.4%)
(備考)・四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(小数点第2位を四捨五入)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスについては、「岡山大学シラバス作成ガイドライン」において、シラバスのフォーマットは全学で統一としたうえで、授業内容、到達目標、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。また、フォーマットの詳細は定期的に見直すこととしている。</p> <p>各授業担当教員は、岡山大学シラバス作成ガイドラインに基づき作成された、全学統一シラバスフォーマットに、「シラバス作成上の留意事項」「シラバス入力の手引き」等に従い、シラバスを作成する。</p> <p>全授業科目において学生の履修登録開始前の3月末までに日本語版、英語版シラバスを作成し、HPにて公開しており、学外からも閲覧可能としている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価は、授業の形態（講義、実験、実習、演習、実技等）に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。卒業の認定に当たっては、定められた卒業要件を満たすことがディグリー・ポリシーで示す学生が身につけているべき能力を満たすこととなり、学生の修得単位数等を踏まえ、学部長の申し出により学長が卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	人文学科	124 単位	①・無	年間 60 単位 ○教養教育科目「留学生支援ボランティア実習」、 「学生支援ボランティア実習」及び補習教育科目は履修上限に含まない
教育学部	学校教育 教員養成課程	126 単位 (特別支援教育専攻のみ:127 単位)	①・無	2 学期間 30 単位 ○第 1・2 学期又は第 3・4 学期 ○グローバル人材育成特別コース履修学生は 8 単位まで追加履修可能 ○複数学期に開講する授業科目の単位数は、当該科目の単位数を開講される学期数で除した数をそれぞれの学期に算入する
	養護教諭 養成課程	126 単位	①・無	
法学部	法学科 (昼間コース)	124 単位	①・無	年間 44 単位 ○当該年度の履修修得単位数(卒業単位資格)が 38 単位以上で、修得した科目(卒業資格単位となる科目)の平均点が 80 点以上の場合は、次年度の履修登録単位数の上限を年間 50 単位(法曹プログラム履修者は 55 単位)とする。ただし修得単位の評価に認定及び修了がある場合は、当該単位を平均点の算出の対象から除く ○グローバル人材育成特別コース履修学生は登録単位数を超えて履修可能
	法学科 (夜間主コース)	124 単位	①・無	規定なし ○履修単位数の上限は設けないが、年間 44 単位を超えない範囲にして、各科目の予習・復習を行うことが望ましい
経済学部	経済学科 (昼間コース)	124 単位	①・無	年間 44 単位 ○4 年次の履修単位数上限はなし ○卒業要件単位数に算入しない「教育職員免許状の取得に係る教職に関する科目(大学が独自に設定する科目を除く)」、 「職業指導に関する科目」、 「副専攻コース」、 「高度学修指導」は履修上限に含まない ○「グローバル人材育成特別コース」の科目は履修上限に含まない ○補修教育の授業科目は履修上限に含まない ○本学の交流協定等に基づく 3 ヶ月以上の留学後は、3 年次まで履修単位の上限を 60 単位とする
経済学部	経済学科 (夜間主コース)	124 単位	①・無	年間 60 単位 ○夜間の授業科目及び集中講義科目は含まない ○昼間に開講される授業科目は年間 20 単位(集中講義科目を含まない)までとする ○卒業要件単位数に算入しない「教育職員免許状の取得に係る教職に関する科目(大学が独自に設定する科目を除く)」、 「職業指導に関する科目」、 「副専攻コース」等は履修上限に含まない ○「グローバル人材育成特別コース」の科目については履修上限に含まない ○補修教育の授業科目は履修上限に含まない

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
理学部	数学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「補習授業(初等数学, 初等物理学, 初等化学, 初等生物学)」「基礎英語」及び「その他別途通知する科目」は履修上限に含まない ○入学前の既修得単位を本学部において修得した科目は履修上限に含まない ○外部検定試験等により単位認定された科目は履修上限に含まない
	物理学科	124 単位	有・無	
	化学科	124 単位	有・無	
	生物学科	124 単位	有・無	
	地球科学科	124 単位	有・無	
医学部	医学科	203.9 単位 (地域枠:205.8 単位)	有・無	年間 50 単位
	保健学科	看護学専攻: 126 単位 放射線技術科学専攻: 132 単位 検査技術科学専攻: 137 単位	有・無	年間 60 単位 ○グローバル人材育成特別コースの履修を認められた者及び生殖補助医療キャリア養成特別コースの履修を認められた者には登録上限は定めない
歯学部	歯学科	203.45 単位	有・無	年間 50 単位
薬学部	薬学科	191 単位 (R4 入学者: 190 単位) (H31~R3 入学者: 189 単位) (H28~30 入学者: 194 単位)	有・無	規定なし ○教養教育科目は年間 30 単位。ただし「グローバル人材育成特別コース」の履修生は除く。また、外部検定試験等により認定された単位数は、これに含まない
	創薬科学科	130 単位 (H28~R2 入学者: 127 単位)	有・無	
工学部	工学科 機械システム系	126 単位	有・無	年間 50 単位 ○「特別研究」, 「卒業要件外単位」として扱われる教員免許取得に必要な科目, 「自然科学の補習授業」, 「グローバル人材育成特別コース」を修了するために必要な科目は履修上限に含まない ○前年度の成績が優秀な学生はその年度に限り上限単位を超えての履修が可能(平均点が 80 点以上の者は年間 8 単位まで増加可能。平均点が 75 点以上 80 点未満の者は年間 4 単位まで増加可能)
	工学科 環境・社会基盤系	126 単位	有・無	
	工学科 情報・電気・数理 データサイエンス系	126 単位	有・無	
	工学科 化学・生命系	126 単位	有・無	
	機械システム系学科	124 単位	有・無	
	電気通信系学科	124 単位	有・無	
	情報系学科	124 単位	有・無	
	化学生命系学科	124 単位	有・無	
環境理工学部	環境数理学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「教育職員免許状の取得に係る科目」, 「グローバル人材育成特別コース」, 「その他の卒業要件外科目の単位」, 「取得できなかった単位」も含まれる
	環境デザイン 工学科	124.5 単位	有・無	
	環境管理工学科	124 単位	有・無	
	環境物質工学科	124 単位	有・無	

農学部	総合農業科学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「グローバル人材育成特別コース」, 「教育職員免許状の取得に係る科目」, 「副専攻コース」科目の履修者は年間(合計)70 単位を上限とする
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html ※ 岡山大学の教育情報→ 1. 教育研究活動の状況についての公表→ (7) 校地, 校舎等の施設/学生の教育研究環境 (設備等)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 環境理工学部 農学部		535,800 円	282,000 円	0 円	
法学部 夜間主コース 経済学部 夜間主コース		267,900 円	141,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 本学では、教育推進機構 学生支援部門 学生相談室に、臨床心理士の資格を持つ専任教員 2 名及びカウンセラー 2 名を配置するとともに、各学部・研究科にも相談協力教員を置き、学生の学生生活上の様々な悩み (修学関係, 進路や適性, 自分の性格や生き方, 人間関係等) について全学協力態勢で相談に応じている。また、同相談室では、学生ピアサポーターを募集し、学生相談室だよりの発行、学生を対象とした公開セミナーに随時参画させている。また、教育推進機構 学生支援部門 障がい学生支援室に専任教員 2 名を配置し、障がいのある学生やその保護者・教職員からの相談に対応しており、関係学部・研究科等と連携し、ボランティア学生の協力のもと、必要な支援サービスを提供している。また、障がい支援室だよりの発行、ボランティア学生の養成・支援技術の啓発・公開セミナーも行っている。
--

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

教育推進機構 学生支援部門 キャリア・学生支援室では、「キャリア形成基礎講座（1年次必修）」「キャリアデザインⅠ～Ⅴ」の授業及び正課外活動（部活動等）支援によるキャリア教育を行うとともに、専任教員、キャリア・アドバイザーによる進路・就職相談、年間を通じての就職ガイダンス等を開催し、キャリア教育と就職支援の両面で、学生の進路選択をサポートしている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センターにおいて、健康診断、専門の医師・カウンセラーによる心身の健康相談、健康教育、応急処置等、学生の身体と心の健康をサポートし、病気の予防や健康の増進を図っている。また、必要に応じて教育推進機構 学生支援部門 学生相談室及び障がい学生支援室等と連携を取りながら学生をサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F133110109503
学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		875人	860人	917人
内 訳	第Ⅰ区分	484人	509人	
	第Ⅱ区分	247人	222人	
	第Ⅲ区分	144人	129人	
家計急変による支援対象者（年間）				15人
合計（年間）				932人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	－
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	15人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	16人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	69人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	69人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。